

## 池田市総合計画審議会 地域生活環境・まちづくり部会① 議事要旨

日 時：令和3年11月26日（金）18：00～20：00

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：（外部委員）

大島部会長

板谷委員、喜多村委員、栗田委員、ゲレンチェール委員、近藤委員、庄田委員、  
多田委員（50音順）

（内部委員）

岡田委員、石田委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 岩下、藤本、川本

<関係部>

市長公室 西山、市民活力部 高木、まちづくり推進部 根津、都市整備部 西村

傍聴者：0名

### 1. 開 会

事務局より出席者の紹介、開催方法について確認があった。

### 2. 案 件

（1）第7次総合計画前期基本計画における施策体系案と第7次総合計画前期基本計画  
施策シート「柱1 価値を高め発信するまち」について

事務局より資料について説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<部会長>

部会長を務めさせていただく。よろしくお願ひしたい。

この部会では、今回と次回に分けて、施策体系の1本目と4本目の施策の柱をご審議いた  
ただ。本日は1本目の施策の柱「価値を高め発信するまち」を扱う。

先ほど事務局から説明があったように、市民意識調査を行い、池田市の良いところ、市  
民として気に入っているところ、これを打ち出してはどうかという部分、まさに攻めの施  
策を集めていただいている。

この良さを磨いていくという観点で、池田市の良さとは何かということ、考えていく  
必要があると思う。

一方で、他の地域にお住まいの方に対して、何を魅力として伝えればいいのかという部  
分については、肯定的な意見が若干少なかった。肯定的な意見が増えると、池田市はま  
ます素晴らしいまちになると思う。その視点も考えていきたい。

これまでの審議会の中で、現状・課題について、事務局から情報の共有があった。これ  
から5年、10年の中で、例えば、少子高齢化、施設の老朽化、インフラの再整備、それ

らのことが必要になってくる。課題解決する上でそれらと整合が取れているかどうかも考えていただければと思う。

それでは、具体的な審議を進めさせていただく。

「価値を高め発信するまち」ということで、四つの施策が挙げられている。施策の(1)『環境共創』のまちづくりについて、常々環境学習等に取り組んでおられる委員より、この問題について、ご意見、ご感想をいただきたい。

#### <外部委員>

「取組の方針」の三つのところを重点的にお話しさせていただく。

まず、②「みどりの環境づくり」だが、都市部においては、環境基本計画の中に緑地面積を増やしていくという目標を持ちながら、実際にはその達成は難しい。ただ、市民意識調査の中で、常に上位に出てくるのが、緑の豊かさとなっている。五月山があって猪名川がある、この環境が好まれている。五月山などの生物多様性を保つエリアと、都市部、まちなかの緑とは、少し切り離して議論した方が市民の皆様にも伝わりやすいと思う。まちなかの緑というのは、どちらかという、憩いや安らぎを与えるものとなっている。では、そこに生物多様性を入れるとどうなるか。実際に駅前にたくさんの鳥が集結し、鳥のふんで苦情が出ているという話も聞く。生物多様性については、五月山などの里山のエリアに特化するなど、住み分けができればいいと思う。

どちらのエリアについても言えることは、「都市型災害に対する」と書かれているように、今後の気候変動に対しての適応をしていかなければならない。国でも議論されており、適応策という部分も文言として入れてもいいかと思っている。特にまちなかにおいては、夏の甚大な暑さに対し、どう対応していくかということも含まれる。

③「脱炭素・循環型」については、多くの分野があるので書ききれないと思うが、一つのキーワードは、環境省が出した環境基本計画で語られている、地域循環共生圏になる。それがローカルSDGsとも言われており、SDGsを本当に実行していくために何をしたらいいのか、どんなまちを目指していくかということがまとめられている。特に移動などについて、インパクトのある展望を示してもらいたい。

「みどりの環境づくり」においては、水辺環境、水辺の保全と活用といったところも、同時に大切な分野と思っている。

最後に、①「環境学習の推進」で、環境学習基本方針というのがあるが、2020年度から始まった新学習指導要領において、社会課題について考える教育が取り入れられて以降、環境学習はSDGsの学習になってきており、非常に幅広くなっている。この環境学習というのは、SDGsと読み替えて、全施策に通ずるような話に広げてもいいのではないかと思う。この総合計画を推進する人材を育てていくという意味では、全て横断している分野かと思う。

#### <部会長>

最初のご発言なので、総括的にお話しいただいた。

五月山とまちなかの緑化について、切り離して考えたらどうか。気候変動の話、それに適応していくような施策、さらにはローカルSDGs、それから地域内循環、そのような言葉がキーワードとして広がりつつある。この先5年間を見据えて、そのようなものに積極的に取り込んではどうかということ、環境学習というのはまさにSDGsの学習と読み替えてもいいぐらいで、教育現場がそういう形になっているという話だった。

事務局で、今のお話の中に何かお答えいただけることなどはあるか。

#### <関係部>

委員にも入っていただいている、環境基本計画の審議会において、全ての環境施策はSDGsにつながり、ゴール地点もSDGsに関連したものを設定している。そのような観点から、環境学習がSDGsの学習になっているというのは時代の流れかと思うので、さらに精度を高めていければと思っている。

気候変動もやはり重要な課題と認識している。これについては、文言を入れるかどうかは検討させていただきたいと思うが、重要な課題であるということは認識している。

#### <部会長>

それでは、ここからは他の委員も含めてご発言いただきたい。

#### <外部委員>

施策の柱のシートで、「価値を高め発信するまち」が柱で、(1)(2)(3)がその価値を高める内容で、(4)が発信の話だと理解した。そのときに、池田市の魅力はこの(1)(2)(3)なのかと少し思った。

例えば、(2)「地域特性を活かしたまちづくり」を見ると、書かれているのは、細河と池田・石橋の話だけで、伏尾台や神田や五月丘はここに入っていない。そういうまちは魅力もなく、地域特性もないのか。

個人的な意見だが、池田市の魅力は、一つは里山の自然。次に、池田・石橋の商業や細河の園芸農業。三つ目を書くとしたら、良質な住環境だと思う。

柱の4に住環境については書かれているが、柱1というのは、先ほど事務局から説明があったように、攻めの施策を集めたものである。住環境が充実しているまちとして、それを発信することは、コロナの影響により自宅で過ごす時間が長くなっている中でとても攻めの施策ではないかという気がしている。大阪市内から郊外に住もうとする時、商業や産業が発達しているからというよりは、いい住宅、いい近隣環境が安く手に入るからということやお子さんの教育環境で選ぶ人も多いのではないか。

分かりやすく(1)(2)(3)は池田市の魅力の項目を並べ、(4)でそれを発信する。もし章立てをするのであれば、住環境を入れたい。

委員の発言を伺っていて思ったが、環境教育はここに入れなければいけないのか。何が言いたいかというと、今回右側に関係する課を書いていた。大体は、課によって縦割りの形での総合計画になっている。総合計画の中で、あえて教育委員会のことが書かれているところに、環境政策課の関係する環境教育を明示することで、施策の実施段階

で横の連携をすることになる。担当課を始めから交ぜて書くことで、両方に関係があることだと総合計画で位置付けることができ、連携しやすくなるのではないかと。

<部会長>

大切な提起をいただいたかと思う。

この1番の柱は池田市として売りにしたい内容を、特に目立つように打ち出すということなので、柱立ては重要になる。

先ほどの住環境について、これは池田市にとって大切な売りだと思うが、いかがだろうか。大切な問題なので、少しここで立ち止まって、他の委員からご意見をいただきたい。ここを攻める章だとして、さらに打ち出していけばいいようなテーマやキーワードがあれば、皆様からご意見をいただきたいと思うが、いかがか。

<外部委員>

委員の意見は、とても建設的だと思う。

もう少し全体を共有した方が、様々な要素がクロスする議論ができると思う。「『環境共創』のまちづくり」だけを切り分けて考えようとする、少し議論が狭まってしまうと思ったが、いかがだろうか。

<部会長>

(1) から (4) まで全て議論をする中で、大きな柱2、3、4も関係があるかもしれないということか。

<外部委員>

そのとおりである。そのように波及していきそうな予感がする。

<部会長>

限られた時間の中で議論するということなので、少なくとも柱1の中で、全体的に話をすることも重要だという問題提起もある。

<外部委員>

今回は4本柱に関しての見直しはしなくても良いと思うが、それぞれの施策の振り分けに関しては議論をしていきたい。

<外部委員>

住環境のところは気になっている。(4)「シティプロモーションの展開」で、最初に「五月山をはじめとする豊かな自然」と書いてあるが、「取組の方針」には、先ほど委員の発言にあった、住環境に関する記載がないので、少し全体的に議論してもいいかと思う。

<部会長>

住環境以外にも、五月山というのは象徴的な存在だということか。

<外部委員>

そのとおりである。

また、(2)と(3)では、細河地域に重点が置かれているのも気になる。伏尾などはどこかで言及があるのか。住環境が、魅力のところから消されてしまっていると思う。

<外部委員>

縦断して考えるのであれば、先ほど委員から、細河地域と都市部とで分けて考えるという意見があった。そういう考え方からいくと、細河地域は市街化調整区域となっているが、今後、5年、10年というスパンで、どういう方向に解釈していくのかが大きな影響を与えるのではないか。

この書き振りからいくと、今の市街化調整区域のままで取組を進めていくということだが、そのあたりをはっきり確認してから進めないと土台が揺らぐように思う。

<部会長>

細河地域というのは、まちなかと細河地域という形で並べて書かれているが、まちなか以外のところを代表して細河地域が出されているという感じなのか。意味合いをお聞きできればと思うが、いかがか。

<関係部>

池田市は2,2000haほどあり、その約半分が五月山を含めた市街化調整区域になっており、細河地域も入っている。そのため、開発ができない区域になっており、里山や自然環境が残る貴重な地域となっている。

ただ、農園業の後継者不足や衰退など、様々な問題を抱えている。何とか細河地域を活性化し、池田市の魅力の一つである豊かな自然も含めて細河地域を盛り上げ、新しい魅力の開発と発見を行い、市民の方に親しんでいただく、そういう契機にしたいと考えている。

そこで、今年度より細河地域活性化推進事業を進めている。拠点施設の整備、官民連携事業の体制、農園芸の生産・流通・販売システムの構築、交流人口の創出と、四つの事業を実施している。今回は地方創生推進交付金で事業を実施しており、それを前端的に押し進めていきたいという思いがあり、ここに挙げさせていただいている。

<部会長>

委員からお話があった、市街化調整区域の代表として細河地域を出しているのか。五月山や伏尾台もお話が出たと思うが、そういったところも含めて、まちなかと対応するような形でお使いになっているのか。その点を委員も確認したいと思うが、いかがか。

#### <関係部>

まちづくり推進部では、細河だけではなく、市街の方では池田や石橋阪大前の駅周辺の活性化を図り、中心部から周りへ広げていく。そういう施策ができればということで、ワークショップを通じて市民の要望を集め、活性化の土台づくりになるものを5年度より始めていく。そのため、細河だけ取り組んでいるというわけではない。

では、他の地域はどうか、神田地域はどうか、という意見は様々なところで出ているが、補助金も何もない状況で、神田地域で何かできるかといってもなかなか難しい。まずは細河の拠点づくりや駅周辺の活性化を図っていきたい。

それと、駅から五月山までの区間をウォーカブルの区域として、公園とマッチングしながら、歩いて楽しく過ごしていけるような空間づくりも進めていく。

#### <外部委員>

池田市環境学習基本方針が、環境部環境にやさしい課と教育委員会学校教育推進課との連名となっている。

これは、全国的にも大きな意味があると思っている。大体「環境」と名の付くものは、環境部局の名前でしか発行されないが、教育委員会事務局が連名で出したというのは非常に珍しい。総合計画でも課を連ねていただきたい。

#### <部会長>

この「主な関係課」というのは、別の課も絡んでくるので、全て書ききれないと思うが、我々委員としては「主な関係課」のところはどのように考えていけばよいのか。

#### <事務局>

今ご質問いただいた「主な関係課」というのは、ご覧いただいている施策シートに実際に記載している課ということになっている。なので、教育関係の課は入っていない。

本日いただいたご意見を踏まえ、ここをどのように書かせていただくべきか、SDGsの観点から、いわゆるESDと言われるものをどう取り扱っていくかは、こちらの方で検討させていただきたい。

1本目の施策の柱には市民意識調査の結果、それから、第6次総合計画の評価を踏まえ、価値を求められていたものを挙げさせていただいている。

先ほど事務局から説明させていただいた1本目の施策の柱の(2)で、「まちなか・いなか」といわれる対比の中に、第6次総合計画の進捗に鑑みて重点に据え置きながらも、施策として大きく捉えてしまったために正確な評価ができなかったという反省も踏まえて、より強力で押し出すべき施策が含まれている。そこが攻めの姿勢と考える。委員からご指摘があった住環境も重要なことと捉えている。

今、行政が取り扱う施策・政策レベルは、統合性、いわゆるマルチパーパスになっている。一つのを捉えて、その枠内で収まりきるというものではないが、組織上の話として、このように切り分けざるを得ないところである。この重点施策の設定の仕方については予算編成にあたってのテーマ構成というところで、時宜に応じたテーマによって組み合

わせ、重点とさせていただく。各施策の中で設定させていただいたものをユニット化、ブロック化し、それを組み合わせることでトピックに応じた対応とさせていただいている。

この時期だからこれが重要ではないかとかいう課題は、その時々に応じて生じてくるものと認識している。それらの対応については、ユニット化した組み合わせで事業予算化していく。そのようなことで今のところは対応が可能となっている。それに照らしてご意見をいただき、また、ここの施策の粒度についてもご意見いただければと思っている。

#### <部会長>

施策体系については、実際に実施していく上でそれぞれの部署がある。それらとユニット化、ブロック化していくということが重要になる。一方で、マルチパーパスというか、多目的なので、どうしてもそれぞれの項目同士で関係しあう部分もある。

この総合計画というのは、「実際に使えるもの」という観点で作成されている。その際に施設体系の要素を一つ一つ考えてしまうと、表現や実践・実行にあたり、分かりにくくなってしまい、使いづらくなっていく、という説明をいただいた。

#### <外部委員>

伏尾台でフリースクールを行っている。担当は教育委員会で教育センターと話をしているが、教育と福祉の中間領域で福祉の話をすることが非常に多い。

今の社会問題は非常に多様化しており、この中間領域が非常に多くなっている。行政機構の話として、事務局の話はよく分かるが、現場レベルでそうせざるを得ない事情があるからこそ、総合計画であえて書いておけば、という意味で先ほど提案させていただいた。

予算作成時に混乱があることは十分理解できるが、中間領域を押さえるためにも、ここで少し混ぜておくべきかと思う。環境教育に関してはこちらにも書くが、ほんの少し、上手に文言で切り分けて教育の方にも載せることで、やる気のある職員が動きやすくなるのではないかという意味で提案した。

#### <事務局>

健康福祉・教育部会でも、シートをまたがるような内容があるという同様の議論がある。

例えば、現況でよく話題になっている、ヤングケアラーと呼ばれる方たちの問題がある。一番端緒として捉えるべきは学校教育現場だが、私立学校はどうするのか、高校生はどうするのか。入口は教育委員会であるが、出口のところは、介護の話であれば福祉、子ども施策であれば子ども・健康部など、組織横断的に対応すべき問題が非常に多い状況である。

そういった部分について、その時々に応じての翌年度の事業予算の編成にあたって、ライン上のテーマ、これだからここを手厚くすればシーリングから外すかもしれないが、その他の分についてはシーリング以上のものを求めるかもしれない。そのような回し方については様々な工夫が考えられる。その点をこの総合計画に書くにあたり、先ほどの環境学習のところで、2本目の施策の柱における学校教育につながるような何らかの姿勢や方向性を書いておき、さらに、逆に学校教育の方からも、環境学習を意識したような形で書くというようなことは確かに大事なことかと思う。

気を付けるべきは、全てに関わってくるという書き方をしてしまうと、何のためにシートを分けているのか分からなくなってしまうことである。マルチパーパスという側面を見せながらも、シートを分けた意味があるような表現にさせていただくことについては、難しさがあると認識しているが、今いただいたご意見を踏まえて、検討させていただきたい。

#### <部会長>

主と副など、関係性があることについて、橋渡しのような形での表現を考えていただきたい。

委員の皆様は、次回もあるので、シートをよく見ていただき、各項目の関係性や表現の工夫などを考えていただきたい。

1本目の施策の柱の(1)から(4)の施策を通した形で議論したいと思う。それぞれご意見をいただきたい。

#### <外部委員>

シティプロモーションの部分について、「価値を高め発信するまち」の中の(4)「シティプロモーションの展開」に入っているが、自治体によっては、柱の1、2、3、4本目を踏まえてシティプロモーションをしているので、広報・シティプロモーション課と空港・観光課だけで行うと書いてしまうと、かなりシュリンクして読まれてしまう可能性もある。「主な関係課」と書いているので、主な責任窓口が見えているという意味では、こういう書き方もあるとは思う。

多くの自治体では、最近では逆転の発想で、自分の自治体の弱みを強みに変えることをプロモーションに使いはじめています。例えば、空き家が多いという池田市の課題がある中で、それをうまく利用して住環境を整えるモデルケースを作るというのもひとつです。里山での産業の後継者不足や里山が荒廃している部分があるならば、逆にそれを改善していくリーディングケースを作っているまちという売り方もできる。それは安全・安心なまち、土砂災害を減らすなど、他の自治体ではすでにそういう打ち出し方を行っているので、広げてみる手もあるかと思う。

#### <部会長>

空き家の有効利用については、ある不動産などと連携して、魅力的な空き家の活性化や、間伐材を使って、土砂災害の防止という取り組みをしているところもある。

#### <外部委員>

観光資源をもう一度見直すというプロモーションを書いてしまうと、住民からすると、もう少し我々の生活を重視してほしいと思う方もいる。

世界的に見ると、フィアレスシティがムーブメントになっている。新しいことにチャレンジするという姿勢を見せることが、プロモーション業界の流行りになっている。別に流行りに乗る必要はないが、デンマークのコペンハーゲンの例などはよく参照される。緑を街中に増やしたい、その緑は果樹になっていて、実った果樹を住民は食べてしまってもよ



い、というやり方である。そうすると、皆が誇りに思い一生懸命育てる、それを世界中の人が見に来る。何かそういうプロモーションのあり方もあるかと思う。

<部会長>

長野県の飯田市が、りんごを街路樹にするという取り組みをしている。

<外部委員>

何かそういうわくわくするようなことをもう1項目入れられると、市民としても良い。

<部会長>

魅力につながるということか。

<外部委員>

そのとおりである。

<部会長>

貴重なご意見をいただいた。

こういう形で何かわくわくするようなご意見をどんどんいただけるといいかもしれない。

<外部委員>

基本的な質問だが、この総合計画というか、「価値を高め発信するまち」の最終的な目標は、池田市の人口を増やすことなのか。

<部会長>

そこは少し確認しておいた方がいいかもしれない。事務局からお願いしたい。

<事務局>

市民からの要望や、攻めの施策ということで申し上げますと、地方創生と言われるようなところになる。第6次総合計画までは、居住者数を目標にしていたが、現在は外させていただき、関係人口や活動人口と言われるようなものを増やしていきたいと考えている。

そうなってくると、正確な数字を把握するのは難しい。これからまちづくりを行うに際して、行政だけで行うものではないというSDGsの理念を捉えている以上、17番目のパートナーシップということはどうしても強くなっていく。都市経営上のネガティブな話であったとしても、様々なご意見を頂戴しないと進めることができないというところから、池田市の良い話も悪い話も含めて、関わっていただける方々を増やしていきたいというのが最終の目標である。

そこにおいて、重要業績指標と言われるKPIやアウトカムと言われるようなところで、何人であるというのはなかなかお示ししにくいものとは思っている。今のご質問に対して

は、端的な形で居住人口を増やすというところではない、ということだけはお答えできるかと思う。

それと、シティプロモーションをここに据えているとシュリンクしていくというご指摘があった。こちらの方は全体会でもご指摘があったかと思う。おっしゃる通り、あらゆるものがプロモーションの対象になると思っている。

ただ、この施策のところに掲載することによって、いわゆる行政評価の対象に入ってくる。予算管理上の事務的な話になるが、対象とするためにわざわざここに書いているところはある。

主に自治総合部会での審議案件になってくるが、いわゆる横串と言っている、SDGsであったり、皆様と作るまちづくりであったり、都市経営、昔で言うところの行財政改革などに、この横串という性格を持つシティプロモーションのあり方、それがここでいう「主な関係課」だけの話でもなければ、その対象はイベントや観光だけではないという姿勢は、何らかの形で意識した表記にすべきと考えている。

#### <部会長>

価値を高めるといえるのはどういう意味なのかというのは、必ず素朴な質問として出てくると思う。それが伝わるような形で今後肉付けしていきたい。

事務局から貴重なコメントをいただいた。このシティプロモーションという部分については、ここだけではなくて、全体を指す、横串みたいな意味合いもあるということだった。おそらく施策の推進を強烈にしていきたいということで、ここへ挙げられている部分もあると思うので、そういう意味合いでは、その推進という観点で、このシティプロモーションなども考えていければいいのではないか。

他に、まだ発言されていない委員がおられるのでお願いしたい。

#### <外部委員>

「都市活力の維持・活性化」の項目だが、ここが唯一「コロナ禍」という表現がはっきりと出されているところかと思う。実際に商工業者へのコロナ禍での不況の直撃という影響が大きく、続いている状況にある。

ただ、新型コロナの影響もさることながら、その陰で石油の高騰、ウッドショックなどがあり、世界的な危機的状況が昔以上に小規模事業者、中小企業者に影響を与えている。5年後を見据えた計画というところで、コロナ禍だけではない、また大きな波が世界的な打撃となったときに、事業者に対しての支援を考えると、予測し得ないので、「など」という表現しかできないかもしれない。

また、課題に「通信販売の利用が加速する一方で、実店舗……個店に求められる魅力を考える必要がある」と書かれている。Amazonなどの大きな通販業界VS池田市にある小さなお店みたいなイメージが想定されているのかと思うが、こういう対立構造がある一方で、IT化が一気に加速した中で実店舗を持たない形の小規模事業者も池田市の中で多数生まれている。このコロナ禍で支援を受けるために、商工会議所を訪れる方の中から、こんな事業者がいたのかということがどんどん顕在化してきた。そういった事業者を池田

市としてどのように支援していけるのかを考えたときに、ここにはまだ書かれていない、もっと広々とした支援が必要かと思う。

ピアまるセンターを池田市が保有しているというのは、他市にはない状況で、とても良いことだと思っている。創業時や、特に店を持たずに事業をされている方は、お客さんと直接会うことがなく、孤独を感じている方が多い。事業者同士が交流できる場を市として提供できるのは良いことである。池田市から新しいビジネスや新しいサービスを対外に発信していくことは魅力発信にも直結する。事業者が元気になれば池田市の魅力が発信できるという部分もあると思う。

<部会長>

今のご発言に、事務局からお答えになることがあればお願いしたい。

<関係部>

事業者支援ということだが、商工会議所や関係団体と連携しての商店街等の活性化もあるが、やはりその中でも、池田市は事始めのまちというのを売りにしていることもある。近々、事始め奨励大賞を開催予定と聞いている。そういった創業者支援の一つとして、ピアまるセンターの活用もあるが、創業者支援を各種支援の中でも柱、核にして、様々な戦略を練っているのではないかと思っている。

<部会長>

今回の計画を作られる上で、コロナはどう位置付けられているのか。どなたかコメントをいただくことは可能か。

<事務局>

「コロナ禍」の表現については、健康福祉・教育部会でもご指摘いただいた。「現状と課題」で、コロナ禍の影響により、ということが書かれており、それは現状には違いないというお話だった。では、今後5年間、果たしてずっとコロナ禍の話なのか、ということだった。

そこは、施策の対象によるかと思っている。コロナ禍で受けた傷が、1年で回復できるものから5年経ってもなかなか回復できないものもある。それらに応じて、「取組の方針」に記載される可能性もあるかと思っているが、今のところ、それをしっかりと認識して、意識した上での表記になっているかは見直す余地が残っている。このコロナ禍を、特に「取組の方針」に今後の5年後においてもまだ書くべき内容なのかは、再度意識した形で検討させていただきたい。

<部会長>

ウィズコロナという考え方と、このコロナを通じて働き方や住まい方が変化したという部分はあると思うので、少しご検討いただきたい。

<外部委員>

「シティプロモーションの展開」のシートの「取組の方針」の①「市民ニーズに合わせた情報発信を行う」で、「各種媒体の持つ特性を最大限に活用」するということだが、池田市のインスタグラムを拝見して、魅力の紹介、食べ物であったり、映えるスポットであったりの紹介が多くあったように思う。

今行われている映えるスポットや食べ物の紹介は、インスタグラムというニーズに合わせたものだと思う。ただ、そこはニーズとは逆に、「池田市ではこんな支援が行われている」ということや、「池田市の政策の紹介」などを発信するののも一つの方法ではないかと思う。

<部会長>

今のご発言に、事務局からお答えになることがあればお願いしたい。

<関係部>

インスタグラムにおいては、広報・シティプロモーション課が制作しているが、池田市の魅力のあるものを中心に、季節的にお花など、市民が目を引くようなものを載せている。ご指摘いただいたように、政策的なものも含めて、総合的にSNSを今まで以上に活用していきたいと思っているので、参考にさせていただきたい。

<外部委員>

広報の分野には、内部広報、外部広報と二つあり、シティプロモーションの場合は、外に向けてどんどん情報を発信していきたい、PRしたいという思いが強まるが、意外と内部広報が難しい。池田市民に池田市のことを共有してもらおう。委員はそれをインスタでももっとできるのではないかと教えてくださった。

先ほどの自店舗を持たない事業主が魅力的な取組をされているということも、まだ知らない池田市民が多いと思う。それをみんなが知れば、拡散していく部分もあるので、内部広報の充実化をもう少し明確に打ち出されるよい。その上で、外に向けてどんどん発信していくといいのではないか。

<部会長>

重要なキーワードをいただいたと思うので、検討をお願いしたい。

<外部委員>

ちなみに「オウンドメディア」とは何を指しているのか。「オウンドメディア」と書いているが、何をオウンされているのか。SNSとオウンドメディアを分けて書いているので、何か持っているのかと思った。

もしくは、「取組の方針」として新たに作るということなのか

<関係部>

SNSには当然力を入れていきたいとは思っているが、やはり高齢の方など、SNSを使えない市民の方もいらっしゃるので、そういう方に向けて、現在使っている市の広報紙等も充実し、紙とSNSの両方を市民向けと外向けにやっていきたい。

<外部委員>

広報紙ということか。理解した。

<部会長>

そろそろ予定の時間に近づいてきた。

最後に、岡田委員と石田委員、本日の率直なご感想やご意見があれば、ご発言いただきたい。

<岡田委員>

柱と柱の間を埋める表現はなかなか難しいところがある。「主な関係課」との連携というのも難しいところがあるが、主要施策のどこかに振り分けないといけない。マルチ的に書くとはばらばらになってしまって分からないので、そこをどうしていくかは非常に問題があると感じている。

<部会長>

非常に難しいと思うが、委員の思いというものもあるので、ぜひ検討していただきたい。

<石田委員>

この施策体系案だが、事務処理上、予算の段階で事業別に評価するというので、どうしようもない部分もある。ただ、委員が言われた通り、最初からセット意識で構想されているのも事実なので、このあたりはまた検討させていただきたい。

それと、「シティブロモーションの展開」という部分で、横串の話もあったかと思うが、他の部会でも議論があった。ここをどう見せていくか。これは冊子になるので、冗談ではあるが、この冊子が3次元の冊子であれば、きれいに横串が入って、リンクが表現できるかと思っていた。何らかの分かりやすい方法を整理、工夫して、考えていきたいと思っている。

<部会長>

最近では冊子だけではなく、動画にすることもあると聞いている。

立体的に伝えやすく、つながりや奥行きを見せられるということもあるが、何よりも動画にすれば、それを見ていただける方も多くなるようなので、見せ方の工夫として、貴重なご意見をいただいた。

### 3. 閉 会

事務局により、次のように事務連絡が行われた。

#### <事務局>

皆様の貴重なご意見、ご提案を基に、庁内において対応を調整させていただく。

次回の開催日時は、12月1日月曜日18時からとなっている。場所については、同じくこちらとなっている。

なお、次回の案件は、今回の意見等への対応報告と、柱4「地球環境と調和する安全・安心なまち」に係る施策シートについての審議の予定である。

また、最初に事務局から説明があったが、総合計画の策定にあたって、現在、中学生意識調査を行っており、その報告もできればと思っている。

以上をもって、池田市総合計画審議会第1回地域生活環境・まちづくり部会を終了させていただきます。

以上